

鎌ヶ谷市総合戦略等検討委員会 第2回会議 会議録

日 時	平成27年10月28日（水）午前9時30分～午前11時15分
場 所	鎌ヶ谷市役所6階 第1・2委員会室
出席委員 （敬称略）	菅野勝利委員、松林百合子委員、小島太朗委員、足立達昭委員、 駒林康一委員、久能剛一委員、布施高広委員、秋山秀一委員、 坂本晋二委員、倉島哲也委員、篠塚紀子委員、榎本美紅委員、 山田圭子委員
欠席委員	片桐博子委員
市出席者	山崎総務企画部次長、渡邊市民生活部次長、斉藤健康福祉部次長、 鎗田都市建設部次長、柴田生涯学習部次長、鈴木消防本部次長、 狩谷企画財政課長
事務局	大塚企画政策室長、高橋企画政策室主査、小暮企画政策室主任主事 （受託事業者）株式会社日本能率協会総合研究所
記 録	小暮
傍 聴 者	なし

1 会議録署名人の選出について

会議録署名人は、委員名簿順に足立委員、駒林委員と決定した。

2（1）鎌ヶ谷市人口ビジョン（案）について（意見交換）

（秋山委員長）

「鎌ヶ谷市人口ビジョン（案）」について、委員の皆さんから意見を伺っていき
たい。資料1の一覧表をご覧になった上で、又は、これ以外について、何かご意見
等があればお願いしたい。

始めに、私の方から伺いたいが、NO.9のご意見として、「育児、子ども手当等、
他市との違いを教えて欲しい」とあり、市の回答で沢山の取組みが記載されてい
るが、せっかくなので、市からご説明願いたい。

（市）

～NO.9の市の考え方、対応方針に基づき、他市との違いについて、概要を説明～

（秋山委員長）

子育ての関係について、榎本委員から何か意見はあるか。

（榎本委員）

近隣市だと、例えば船橋市では、子供が保育園に入れず、お母さんが働けない状
況にあるが、鎌ヶ谷市では、待機児童0人となっており、お母さんの立場からは大
変ありがたいことである。

（秋山委員長）

鎌ケ谷市が実施している保健師の訪問や検診等は、とても素晴らしいと思う。

自分にも娘がいるが、家族ではなかなか気づかない点をケアしてくれて、本当に助かった経験がある。

その他に、布施委員はいかがか。

(布施委員)

NO.13の意見を出させていただいたが、人口ビジョンで、人口の将来展望を2060年に107,000人を維持しようとなっている。

しかし、国や県では、将来人口は減少していく試算となっており、鎌ケ谷市においても人口減少は避けられないのではないかと考えるが、いかがか。

(市)

国では、中長期展望として2060年に1億人程度の人口を確保することを示しており、本市としてもこれを達成するため、国と同様合計特殊出生率を2030年に1.8、2040年には、人口置換水準である2.07を目指し、人口を出来るだけ減少させないように、取り組んでいこうというものである。

そのために、まずはこの5年間に総合戦略で掲げた施策を積極的に実施することで、本市の魅力を高め、将来人口の達成に向け、取り組んでいきたいと考える。

(菅野委員)

この会議では、人口を減らさないためには、どうするかを考えていく必要がある。そういった面では、小さい取組みも重要となってくる。

例えば、乳幼児の自己負担金をみると、鎌ケ谷市では0円又は300円となっているが、松戸市では、0円又は200円となっている。

人口ビジョンの転出者の状況を見ても、転出先は、東京圏が8割であり、そのうち6割が船橋市、松戸市、柏市、市川市となっており、逆に市へ転入してくる転入元の市も同じ市である。

現状の取組みは良いが、市民サービスについて、他市と比較した場合、同等かそれ以上になるよう取り組んでいく必要があるのではないかと思います。

(市)

医療費の助成に限らず、小さな取組みにも目を向けて、近隣市の状況を踏まえ、取り組んでいきたいと考える。

(秋山委員長)

小さな取組み一つひとつが重要であるので、今後も市のイメージがプラスとなるよう取り組んでいただきたいと思います。

それでは、他に意見が無ければ、「鎌ケ谷市人口ビジョン(案)」に対する意見交換は終え、次の「鎌ケ谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)」の意見交換に移りたいと思う。

2(2) 鎌ヶ谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について (意見交換)

(秋山委員長)

「鎌ヶ谷市人口ビジョン(案)」と同じく、資料2の一覧表をご覧になった上で、何かご意見等があれば、お願いしたい。

また、一覧表以外についても、新たにご意見・ご提案等あれば、お願いしたい。

(菅野委員)

企業立地については、工業団地のようなものを誘致し建設していくのか。具体的な考えがあれば教えていただきたい。

(市)

企業立地については、鎌ヶ谷市は面積もあまり大きくないことから、他市のように工業団地を建設していくことは難しいと考える。

現在の鎌ヶ谷市のキャパシティを踏まえ、どのような支援をして、企業を誘致できるか、庁内で検討委員会を設け検討しているところである。

本市としては、本市独自の支援制度を構築することで、企業に来ていただき、雇用の創出や法人税の増加に繋げていきたいと考えている。

(菅野委員)

今、梨の後継者不足が問題となっているかと思う。

その中で例えば、梨畑を潰して、大きな土地を確保し、工業団地を建設するなど考えていく必要があるのではないか。

(市)

梨の後継者不足はあるが、本市としては、梨農家を育成し、守っていかないとはいけなことから、梨畑に工業団地を建設することは難しいと考える。

企業誘致については、例えば、国道464号線が市川まで開通する予定であるが、その沿線などを活用しながら、企業を誘致していければと考えている。

(秋山委員長)

鎌ヶ谷市にとって、梨農家はとても大切な産業であるかと思う。

企業立地も鎌ヶ谷市に合った誘致を進め、雇用の創出を目指していくことが重要である。

一覧表の意見の中で、例えばNO.2の結婚に対する施策が意見として挙げられているが、市の考えはいかがか。

(市)

今回実施した「結婚・出産・子育てに関するアンケート」において、結婚を支援するため行政が実施することが望ましい施策として、「子育てしやすい社会環境づくり」、「安定した雇用の確保」の意見が特に多く、子育てのしやすさや若者世代の働きやすさが結婚におけるポイントとなっていることから、これらに結びつく施策を総合戦略で掲げているところである。

一方で「結婚祝金などの経済的支援」や「結婚したい男女の出会いの場の提供」

もアンケートの結果から、少なからず要望があることから、各事業者が実施する婚活イベント等に対する支援を実施するなど、結婚に結びつく施策を今後実施していくことを検討していきたいと考える。

(秋山委員長)

日本ハムファイターズ鎌ヶ谷スタジアム（以下、鎌ヶ谷スタジアム）では、婚活イベントを実施していたかと思うが、足立委員から何かご意見あるか。

(足立委員)

今年（平成27年度）、鎌ヶ谷スタジアムの中で、婚活イベントを実施した。

その実績をお話しすると、船橋市農政課から人参をPRしたいとの話があった。

婚活イベント会社が間に入って農業のお嫁さんを募集することを目的として、農家の方を優先的に参加することを条件に実施したところである（日本ハムファイターズは場所を貸したのみ）。

感じていることとして、船橋市や埼玉県のカウシティと取組みをすることがあるが、鎌ヶ谷市に比べ、他の市は判断がとても速い。船橋市は即決で実施している。

(秋山委員長)

行政では初めて実施することに、時間がかかることが多々あるが、今のご意見はとても参考になる。

鎌ヶ谷市では、日本ハムファイターズの球場があるので、それを一つの話題として、人を呼び込み、これに加え、梨狩りや野馬追いなど、他のスポットにも寄ってもらうことで、地域の中を周遊してもらえると良い。

(市)

委員の皆さんからは良い意見をいただいているので、いただいた意見については、総合戦略に掲げる事業を展開していく中で、取り組んでいきたいと考える。

また、今年ランフェスタが実施されるが、今回の経験を活かして、今後違った事業についても、取り組んでいきたいと思う。

(秋山委員長)

ぜひ、お願いしたいと思う。

それでは、松林委員、何かご意見はあるか。

(松林委員)

子育て支援については、今後も実施していただきたい。

私ごとの意見ですが、高齢者の独り暮らしの家庭には、安全に暮らしているか職員が訪問しているかと思うが、自分は仕事も持っていて、健康にはとても気をつけているので、自分のところには、無くて良いかなと思う。

中には元気でやっている人もいますので、他のところに訪問していただければ良いと思う。

(秋山委員長)

高齢の方でも、出来ることは自分で実施している人も多い。

男性の健康年齢は70歳と言われており、これを引き上げていければと思う。

山田委員は何かご意見あるか。

(山田委員)

私は、鎌ヶ谷市第五中学校の校長をしている。

鎌ヶ谷市では、市独自の取組みとして、少人数教育指導教員（きらり先生）、特別支援教育推進指導教員（ほほえみ先生）、学校図書館司書を全小中学校に配置しており、とても助かっている。

保護者からの問い合わせが沢山ある中で、今求められているのは、それぞれの子どもにあった、手厚い支援が求められている。

総合戦略でも、“特別に支援を必要とする児童生徒への対応の充実”が記載されているので、今後の取組みに期待したいと思う。

(秋山委員長)

私の娘も、過去に鎌ヶ谷の公立の小中学校に通っていて、とても良かったと感じている。

他にも、新京成電鉄さんでは、いろいろなイベントを実施しているかと思うが、いかがか。

(小島委員)

地元のお客様に来ていただき、住んでいただくという点では、総合戦略の目指す方向と同じである。

新京成電鉄では、先日、くぬぎ山の車両基地見学会を実施し、約6,000人の方に来ていただくことが出来た。

また、新京成沿線ハイキングを実施しているが、今後も色々な方と協力しながら、市へ来ていただきたいと考えている。

(秋山委員長)

市へ来ていただくため、新京成電鉄さんや日本ハムファイターズさんで、魅力的なイベントを実施してきている。

他にも、鎌ヶ谷市には梨やぶどう狩りがあるかと思うが、駒林委員から何かご意見あるか。

(駒林委員)

松戸市では畑（はた）コンを実施している。

これは、行政とJAが組んで実施しており、農家の後継者不足を解消する目的で実施した。現在1組がカップルとして付き合っていると聞いている。

結婚まではいくかは分からないが、きっかけ作りにはなるかと考える。

畑を利用した婚活イベントがあれば良いかと思う。

(久能委員)

浦安市でも、市と商工会がコラボして、シェラトンホテルで婚活イベントを実施しており、カップル成立率は、40パーセントであるとのこと。

市の総合戦略を拝見した中で、自然増や社会増を目指していくため、金銭的補助や地域全体で支える子育ての取組みは盛り込まれていると感じた。

一方で、人口ビジョンの中で、今後20歳～39歳の女性が減っていく中で、これらをターゲットとした取組みが若干見えなかった気がした。

また、先ほど市の手当について、ご説明があったが、調べないと分からないので、市民に伝わっていないのかと感じた。

広報戦略はとても難しいことであるが、市の取組みを上手にPRしていけると良いのではないか。

(秋山委員長)

伝えていく力は、必要である。

市の総合戦略の中でも、情報を発信していくことが重要であるかと思う。

続いて、坂元委員から何かご意見はあるか。

(坂元委員)

意見にも出させていただいたが、千葉銀行では、東京営業所（日本橋）にある大型のオーロラビジョンを開放しており、千葉県や我孫子市に利用していただいている。

年間で3万円であり、都市のブランド化を進めていく上でも、知っていただくことが重要である。

アンケートでも、8割の方が鎌ヶ谷市を住みやすいと回答しており、人口の増加は見込めるのではないかと思う。

(秋山委員長)

鎌ヶ谷スタジアムにも大型のビジョンがあるが、このような媒体を活用し、PRしていけると良い。

続いて、倉島委員から何か意見あるか。

(倉島委員)

資料を拝見して、とても勉強になった。

労働団体としては、やはり仕事として、企業立地に着目している。

働く場所＝住む場所は一致しておらず、鎌ヶ谷市のこの企業で働きたいというのは、なかなか無いかと思う。

鎌ヶ谷市は交通網が発達していると思っているので、駅前をもっと活性化出来れば、市に降りる人も増えてくるのではないか。

市に住まなくても、まずは降りたい人を留める施策に取り組むことで、住みたいと思う街に繋がっていくと思う。

(秋山委員長)

新鎌ヶ谷駅前には屋台村があるが、駅から人がどんどん降りて、いろいろな所に寄ってもらえると良い。

私が知り合いに聞いた話で良かったと思うのが、以前グリーンハイツに住んで育った人が、結婚して再び別の棟に戻って、子育てをしているという話を聞いたことである。

生まれ育った街に帰って子育てしようと思ってくれる人がいたことはとても良いことである。

鎌ヶ谷市でも沢山の施策を実施したり、企業でもイベントを実施してきているが、今後も協力しながら、総合的に取り組むことで、5年・10年先に活かされていくのだと思う。

続いて、篠塚委員から何か意見あるか。

(篠塚委員)

20歳～39歳の女性の流出対策の中で、住みやすさや働きやすさ、子育てのしやすさというのは、とても重要なことであるかと思う。

その中で、1点気になったこととして、総合戦略の29頁の成果指標で、教育環境満足度が掲げられているが、基準値が16.1パーセントに対し、目標値が20パーセントというのは、少し低いのではないかと感じた。

教育環境が足りなければ、どこが足りないのか割り出して、取り組んでいくのが重要であるかと考える。

(市)

この成果指標は、平成25年度に実施した市民意識調査の「教育施設や教育環境」の満足度を掲げたものである。

本市としては、先ほど話があった、少人数教育指導教員（きらり先生）、特別支援教育推進指導教員（ほほえみ先生）、学校図書館司書の全校配置や、小中学校の空調設備の設置など、東葛管内でも先進的な取り組みを実施してきているが、これが市民に伝わっていないところがある。

そのため、これらの情報をもっとPRしていき、満足度を今以上に上げていきたいと考えている。

(秋山委員長)

調査の中で、たまたまこの数字が出てしまったが、目標値は、基準値をもっと上回るように設定しているかと思う。

市では、良い取り組みを沢山実施しているので、これを多くの人に知ってもらうようPRしていけると良い。

(秋山委員長)

榎本委員は、何か意見あるか。

(榎本委員)

意見として3点ある。

1点目は、資料2のNO.23の医療の取り組みについてであるが、緊急措置として、連携病院である千葉西総合病院で夜間・休日診療を受けられるようになっているとのことだが、市に住んでいる子育て中のママさんは、何かあった時すぐに対応できることを望んでいる。

やはり、鎌ヶ谷総合病院が近くにあるのに、なぜ千葉西総合病院になるのか疑問が残るところである。

全国的な医師不足は、理解しているが、いつぐらいを目途に実現するのか、分かるようにしてほしい。

計画もどんどん修正されて、結果どうなるのか、ママさんも不満が募っていくと思う。市内の近くにあるという安心感を持っていただくためにも、ママさんが安心した方策を講じていくと良い。

2点目としては、鎌ヶ谷市は小さいお子さんへの助成は、沢山実施しているが、小学校や中学校など、上の子に対しての助成もあると良い。

やはり、小学校に上がった辺りで、働き出すママさんも多いかと思うが、将来を考えると、金銭面で不安を抱える人も多く、第2子、第3子を諦める人も多い。

子どもが大きくなってきても、安心して育てられるような環境づくりも必要かと思う。

3点目として、私達は通常企業の方とお話しする機会がなかなか無いが、企業の方からの意見はとても良い経験であり、もっと欲しいと思っている。

ママさんと企業とで意見交換することはあるが、壁を感じることもある。

そのため、市や企業、高齢者の方など、多世代の交流の場を設けて欲しいと考えている。

(秋山委員長)

高齢者の立場からお話しすると、この年齢で自分から動くことはなかなか無いが、声をかけられると、喜んで参加したりすることが多い。

出版社の人もそうだが、面白いと思ったことは、どんどん自分から動いて行動している。

行政だけに期待するのではなく、榎本さん自身が行動に移せば、市もそれに対して支援してくれる。その辺り、鎌ヶ谷市は良くやってくれていると思う。

この会議を通して、若い人達に伝えていただくことが重要である。

ママさんたちが良かったと思わなければ、子ども達も良くはならないので、行動に移していただきたい。

最後に、布施委員から、何か意見あるか。

(布施委員)

資料2のNO.18で意見出させていただいたが、施策の目標値について、何点か確認させていただきたい。

1つは観光入込客数として、毎年1万人の増加を目指すとのことだが、根拠はあるのか。

2つ目は、子ども医療費助成件数で、助成件数を目標値として掲げているが、医療は受けない方が良く考えるので、増やしていく指標は、目標として馴染まないのではないかと考える。

3点目は、雇用人数の根拠を教えてください。

(市)

1点目の観光入込客数であるが、本市の後期基本計画第3次実施計画でも掲げている目標値である。

毎年1万人増加としては、市民まつりや産業フェスティバル、YOSAKOI、

日本ハムファイターズのイベント等の観光施策を充実化させ、人数を増やしていくことを見込んでいる。

2点目の子ども医療助成件数の成果指標についてであるが、5年後に8,000件の増加を目指すものであるが、これは、本来利用すべき方が、制度を理解していただき、もっと利用していただくようにしていくものであり、制度の周知を目的に指標として設定しているものである。

3点目の雇用人数の根拠であるが、新たな雇用として、企業立地により120人が市内で働くことができると考えている。

また、総合戦略に掲げて就労支援を実施することで、目標値として位置付けている就労人数を合計した結果、1,070人を確保することができると見込んだものである。

(布施委員)

企業立地は、誘致できる具体的な見込みはあるのか。

(市)

本市独自の支援制度を設け、5年後には、6件誘致できると見込んでいる。

具体的な見込みは、まだ無いところである。

(布施委員)

市独自の支援制度とは、どのようなものを考えているのか。

(市)

支援制度については、昨年度より市内で委員会を設け、基本的なメニューは検討したところであるが、今年度は、これにさらに肉付けをし、本市独自の支援制度を検討していきたいと考えている。

(布施委員)

子育て支援のメニューもあると良い。

(市)

そのような支援メニューも、1つの方策として、今後検討していきたい。

(秋山委員長)

本日、沢山の意見が出たが、これらの意見を踏まえて、市の方で検討をしていただきたいと思う。

3 次回の検討委員会について

(秋山委員長)

本日、色々な意見が出たかと思うが、次回の検討委員会までの進め方について、事務局から説明をお願いします。

(市)

本日、「人口ビジョン（案）」及び「総合戦略（案）」について、意見交換させていただいたが、委員の皆様の見解を踏まえ、市の担当部署と調整をし、案の修正を行っていく。

また、修正した案については、次回の第3回目の検討委員会にて、再度委員の皆様にお示しをし、内容を確認した上で、最後意見交換を行っていきたいと考えている。

4 その他

(秋山委員長)

最後に、次第の4「その他」について、委員又は事務局から何かあるか。

(市)

次回の第3回目の日程について、お知らせする。

3回目の会議は、平成27年11月17日（火）午後2時からを予定しており、場所は本日と同じ、この場所で開催する。

なお、開催通知については、別途送付させていただく。

(秋山委員長)

それでは、他に意見が無ければ、本日の会議はこれで終了とする。

以上で会議は終了した。

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため次に署名する。

平成27年12月11日

氏名

足立 達昭

氏名

駒林 康一
